



ふるさと笠松の「ちょっといい話」112号



「笠松大名行列お奴は、町民の熱意が支えています！」

右の写真は小・中・高校生たちがお奴の練習をしている様子です。その子どもたちを指導しているのがお奴保存会の青年部やOBの方々です。お昼の仕事を終えてホッとしたい夜に、子どもたちを指導することはずいぶんとハードなことだと思われます。熱心な指導の様子を見ていますと、町の貴重な財産であるお奴を後世に伝えたいという熱い思いが伝わってきます。

春まつりの一大行事である「大名行列お奴」の歴史は古く、1861年(文久元年)に皇女和宮の降嫁に際して、時の郡代岩田鎌三郎から和宮警護の動員を請けた笠松の町衆が、郷足軽として長柄持役や毛槍役として従ったことが起源です。明治維新後、笠松の町民は岩田郡代の遺徳を偲び、郡代の格式に合わせて大名行列の諸道具を全国から求め、笠松まつりの祭礼の余興として「大名行列お奴」を復活させました。

平成7年11月に岐阜県重要無形文化財の指定を受けた「大名行列お奴」は、笠松大名行列お奴保存会の方々をはじめ、町民の方々の大変な熱意のおかげで、毎年お奴を楽しみ見ることが出来ています。そこで、保存会の会長を4年間にわたって務めてみえます野々垣美樹(ののがき よしき)様にお奴に対する思いをインタビューしました。

質問 現在、お奴についてどんな思いを持っておみえですか？

野々垣会長: ↓・・・保存会の青年部やOBの方がしっかりとやってくださっているのがありがたいです。小学生から高校生までの方をしっかりと指導してくださっています。お奴は昔から続けている大切な文化であり町の財産なので、次の世代の方にも受け継いで頂きたいと思っています。町の人で手の空いている方には、是非、お奴に参加して欲しいです。お姫さまには今年は10人の応募がありました。来年も多くの応募があることを願っています。

(下の写真は熱心な練習風景)



「平成28年笠松大名行列お奴」のがんばっている姿



役場前での保存会会長のごあいさつ



八幡神社境内のお奴



八幡神社境内のお奴



女子もがんばっています。



男子もがんばっています。



練習の成果が表れています。

